

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第23回理事会議事録

- 日時：平成30年5月25日（金）15:00～17:00
- 場所：沖縄県立博物館美術館 博物館実習室
- 出席（役員）：中野義勝、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、藤田喜久、沖縄エコツーリズム推進協議会（花井正光、山岸豊）、案納昭則、宮古島マリンリゾート協同組合（新村一広）、佐藤崇範、後藤亜樹、沖縄県立博物館・美術館（菊川章）、沖縄リーフチェック研究会（安部真理子）、沖縄県衛生環境研究所（金城孝一）
（オブザーバー）：小菅陽子
- 委任状：環境省那覇自然環境事務所（広野行男）、木村匡、西平守孝
- 事務局長：沖縄県環境部自然保護課（津波昭史）
- 運営委員：キュリオス沖縄（仲栄真礁、宮崎悠）
- 議事録署名人：佐藤崇範、案納昭則

役員20名中、上記11名の出席者（会長、副会長、理事9名）および3名の委任状により、成立要件である理事の過半数を満たしたので成立、内容を協議し決定した。

議事録署名人として佐藤崇範、案納昭則が選出された。

【アンダーライン部分が理事会での決定事項】

【「・」は説明事項および提言事項】

【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

（1）事務局および各委員会からの報告

1. 事務局からの報告（資料1）

①サンゴ礁ウィーク2018の実施について

- ・事務局よりサンゴ礁ウィーク2018の実施概要と今後の展望が報告された。
- ・国際サンゴ礁年と、登録イベントの取り合いになった可能性がある。
→報告書を国際サンゴ礁年の方にも共有し、ノウハウをシェアするように。
- ・オープニングイベントがなく、盛り上がり作りが作りにくかった。メディアもオープニングイベントに対して取材をかけたがっていた。
→来年度はオープニングイベントの実施を検討する。会場はタイムスホールなどを検討する。
- ・本年度は研究者、保全団体以外の一般事業者からの参加が多く集まった。

- 傾向としては良い。ただ、あまりに関連性の低いイベントが増えないよう、参加イベントのレギュレーションを考える必要がある。
- 協議会への会員登録は、イベント登録の条件になっているのか。
- 条件にはなっておらず、現状では後から登録を案内する形になっている。
- ・登録したものの実施されなかったイベントがあった。
 - 協議会から連絡・支援等を行うことで、不実施を防げるようなケースには積極的に関わっていく必要がある。
- ・イメージ展について、締め切りは設ける必要はあるものの、年間を通じて参加者が開催を知り得る、エントリーできる状態を作りたい。
 - フェイスブックページのトップに告知を固定する。最優秀賞作品をイベントなどに積極的に露出させる。
 - 「あなたがイメージする人の暮らしとサンゴ礁の絵や写真」という募集作品についての説明は、再検討が必要だと思われる。
 - たとえば、部屋に飾ってある海やサンゴの絵や写真といったものを題材にしたものでも良い。

②「丸の内キッズジャンボリー2018」について

- ・事務局より、丸の内キッズジャンボリー2018への参加について説明・提案がなされた。
- ・サンゴ礁ウィーク2018実行委員会が、丸の内キッズジャンボリー2018の企画も担当することを決定した。
- ・開催の実行費200万円の支援が決まっている。
- ・企画の内容を相談したい。3日間あるが、同じイベントではなくても良い。
 - アクティビティ業者を営む協議会会員にとっては、かき入れ時にあたる時期である。
 - こなす感覚ではなく、良いものを出す必要がある。
 - 非常に大きなイベントで様々な大企業の出入りもあるので、うまく行けば他の支援先を見つけられる可能性もある。
 - 協議会について説明できる理事が、最低1人付く必要がある。
- ・飛行機も混むので、1ヶ月前には具体的なタイムテーブルを設定する必要がある。
 - 企画の締め切りは6月の中旬。
- ・出展できる可能性がある内部・外部のコンテンツについて、協議がなされた。
 - 協議会に加入している業者や個人だけか。
 - 外部の団体にも、協議会の会員としてキッズジャンボリーに参加してほしい。ただし協議会として出てもらうことにはなる。旅費・謝金は支出可能である。

③平成30年度の事務委託について

- ・事務局より平成30年度事務委託について説明をおこなった。
- ・サウジアラムコ助成事業、ジュニアサンゴレンジャー事業については後述（資料3）。

2. 法人化（NPO法人）について（資料2）

- ・昨年度は予算枠を取ったものの、具体的な議論に入ることができなかった。
 - 将来委員会では、NPO化を前提に議論、将来的には認定NPOを目指す方針を定めた。
ただし先に他の法人格になった方がよいと考えられるなら、その可能性も議論し検討する。
 - こちらで決めてから法人化の手続きを依頼するのではなく、各種法人化のメリット・デメリットを判断してもらうところからコンサルタントに入ってもらうのはどうか。日本NPOセンターが、そのような依頼を受けている。
- ・「法人化委員会」を置くことが確認され、法人化に関する勉強会を開催することが決定された。
- ・法人化委員会の委員長を新村一広に打診する。法人化のための委託費はコンサルタントに支出することとする。
 - NPOにした場合は、事務局を別に設置して人を雇用する必要があるのか。
 - 常駐の職員を雇わなくてはならないということはないはずである。行政が理事になることができないので、組織運営の体制を変更する必要がある。法人としてのシステムを維持する労力がかかるという覚悟は必要である。

3. サウジアラムコ助成事業・ジュニアサンゴレンジャー事業について(資料3)

①サウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援助成事業について

- ・事務局より、平成30年度サウジアラムコ助成事業について説明がなされた。
- ・審査会構成員(案)が事務局より提案された（資料3）。
- ・募集は7月中旬から8月中旬にかけて1ヶ月の募集期間を設けて行い、9月中に助成先を確定する。
- ・実施のスケジュールについては、なるべくジュニアサンゴレンジャー事業とバッティングしない期間で検討したい。
- ・事務局から提出された審査会構成員（案）が承認された。
- ・実施要項案の文言について審議され、提案の通り決定された。
- ・「前年度の申し送り事項」について、役員より確認する質問があった。
 - 事務局が改めて確認し回答する。

②ジュニアサンゴレンジャー事業について

- ・事務局より、ジュニアサンゴレンジャー事業について説明がなされた。
- ・ジュニアサンゴレンジャーは年度内に2回の公募をしようという取り決めだったが、1回しか公募出来ておらず、採択件数も最大10件のところ、2件しか採択できていない。
 - ・10件の応募枠に対して5件の応募があり、1件辞退、4件を採択した。このうち1件は採択後連絡がつかず、また採択後にさらに1件辞退があり、最終的に2件に対する支援を行った。
 - ・サンゴ礁ウィークのタイミングで2回目の募集を行う想定であったが、サンゴ礁ウィーク関連の他業務に圧迫され、2回目の募集がかけられなかった。このため、業務の履行が不十分であるとして請求額は当初予定の半額（242,406円）とした。
 - 委託費としては納得できない。採択できた団体が少ない。
 - そもそも50万の助成金に対して、60万の運営費はかかりすぎでないか。
 - きちんと総括して、再検討する必要がある。1回休んでしっかり検討し直してもよいのではないか。
 - 継続はしたほうがよい。フィールド学習のための交通費など、ニーズもあることを確認している。
 - 年1回の実施で10団体採択しても良いのではないか。昨年度が初めての実施ということもあり、実施実績をもとにすれば募集しやすいのではないか。
- ・8月20日募集締切で採択決定が10月と、採択決定までに1ヶ月以上かかってしまった。
 - 学校は夏休み期間を利用して実施するところが多いと考えられるため、7月を目処に募集を開始できるようにするべきではないか。
- ・次年度の計画案を提出し、次年度の採択件数、委託費用を協議して決定する。
 - 研究発表を博物館でやるという予定が当初あったが、どうなったか。
 - 交流会での発表の打診はする予定で、その旅費も予算に計上している。

(2) 第11回総会について（資料4）

- ・事務局より、第11回総会について説明がなされた。
- ・事務局より、第11回総会の日程・スケジュールについて説明がなされた。
- ・日程は平成30年7月8日（日）を予定している。
- ・会場は未定。
- ・午前中に理事会をおこない、13:30より15:00までを総会、その後交流会の実施を予定している。

- ・事務局より、第1号議案「平成29年度活動報告」、及び第2号議案「平成29年度収支決算報告」について説明がなされた。
 - 28年度、29年度の事業について精算払いが済んでいないものがあり、どれが未払いなのか分かるようにしなければならない。
 - 29年度収支決算報告について、決算報告の収支決算額が合っていない。再度監査の確認が必要である。
- ・前年度提案された出版事業については、前年度動かすことができなかった。
 - 今年度、動かせるように検討する。
- ・事務局より、第3号議案「平成30年度事業計画（案）」について説明がなされた。
 - 30年度事業計画について、ジュニアサンゴレンジャー事業については総会までに検討を要する（上記（1）-3参照）。
 - キッズジャンボリーの企画については、6月中旬で企画を締切り手配をしなくては間に合わない。
- ・空港の写真展は7月13日ー10月1日となる予定。
 - 昨年度のサンゴ礁ウィークのイメージ展の受賞作品も展示する。
- ・昨年度の受賞作品をデザインに入れて今年度のイメージ展募集のポスターを制作する。
- ・沖縄で行われる日本サンゴ礁学会の大会において、当協議会の活動についてポスターで広報する。
- ・事務局より、第4号議案「平成30年度収支予算（案）」について説明がなされた。
 - 30年度収支予算について、丸の内キッズジャンボリーは特別会計となる。請求できるのがどのタイミングになるか確認しておく必要がある。場合によっては概算払も必要となる。
- ・総会の議案について、第2号議案（平成29年度収支決算報告）を除き承認された。第2号議案については再度精査し、総会までに理事会メールで承認を得るようにする。

（3）交流会について（資料5）

- ・交流会について、協議会会員の活動の報告を行い、会員相互の活動について認知を広げる必要がある。
 - 協議会の本来の目的は交流会であり（活動者のプラットフォームとしての機能）、なるべく活動者の参加を促す。そのためにも日程を理事会・総会とともに1日で収める必要がある。
- ・交流会の実施は企画委員会に一任する。
- ・助成事業は、交流会への参加および活動報告を義務化する。